

2025 年度中央大学共同プロジェクト 研究実績報告書

1. 概要

研究代表者		所属機関	総合政策学部	2025 年度助成額 4, 254, 000 円	
		氏名	実積 寿也		
		NAME	Toshiya Jitsuzumi		
研究 課題名	和 文	ポストコロナ・AI 時代のネットいじめの予防・ 対応の研究		研究 期間	2024～2026 年度
	英 文	Cyberbullying in the Post-COVID AI Era: Emerging Risks and Adolescent Responses			

2. 研究組織

※所属機関・部局・職名は 2026 年 3 月 31 日時点のものです。

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	実積 寿也	総合政策学部・教授	全体取りまとめ・政策提 言	
2	岡嶋 裕史	国際情報学部・教授	データ分析	
3	富田 拓郎	文学部・教授	調査設計・分析	
4	中村 周史	総合政策学部・准教授	データ分析	
5	田代 光輝	総合政策学部・特任准教授	データ分析	
6	大宮 宗一郎	上越教育大学大学院・学校教育研究 科 講師	調査設計・分析	
7	菊地 創	愛知県立大学・教育福祉学部・講師	調査設計・分析	
合計 7 名				

3. 2025年度の研究活動報告 ※行が不足する場合は、適宜、行を追加してご記入ください。

(和文)

[研究活動について]

2025年度は研究打ち合わせを全てオンライン環境で実施した。具体的な日時、内容については以下の表に記載するとおりである。

[打合せ]

ネットいじめの実態調査についての打ち合わせ

日	時間	内容	参加者
4月18日	19:00	アンケート調査内容の確認	富田・大宮・菊地・実積・田代
5月26日	19:00	アンケート調査結果の確認	富田・大宮・菊地・実積・田代
6月23日	19:00	分析結果の考察	富田・大宮・菊地・実積・田代
8月12日	19:00	発表内容等の確認	富田・大宮・菊地・実積・田代
9月16日	19:00	分析結果の考察	富田・大宮・菊地・実積・田代
10月27日	13:00	第2回調査に向けた分析1	富田・大宮・菊地・実積・田代
11月13日	11:00	第2回調査に向けた分析2	富田・大宮・菊地・実積・田代
3月11日	15:00	第2回調査に向けた分析3	富田・大宮・菊地・実積・田代

中大PGの打ち合わせ

日	時間	内容	参加者
11月19日	17:00	文学部高瀬教授との打ち合わせ	実積・富田・岡嶋
12月16日	11:00	PG参加に向けた準備	実積・富田・岡嶋

ゲームと孤独に関する調査の打ち合わせ

日	時間	内容	参加者
5月21日	19:00	ゲームと孤独の調査のキックオフ	中村・岡嶋・実積・田代
6月4日	13:00	プロゲーマーの心理状態について 平野貴大氏（株式会社REJECT 執行役員）へのヒヤリング	中村・岡嶋・田代
6月5日	11:00	ネットゲームプレイヤーの心理状態について 薬師神豪祐氏（法律事務所 fork 弁護士）へのヒヤリング	中村・岡嶋・実積・田代
6月25日	19:00	先行研究レビュー1	中村・岡嶋・実積・田代
7月9日	19:00	先行研究レビュー2	中村・岡嶋・実積・田代
7月22日	19:00	先行研究レビュー3、調査内容精査1	中村・岡嶋・実積・田代
7月27日	11:00	調査内容精査2	中村・岡嶋・田代
8月16日	10:00	調査内容精査3	中村・岡嶋・実積・田代
8月22日	10:00	調査内容精査4	中村・岡嶋・実積・田代
9月15日	10:00	調査結果分析1	中村・岡嶋・実積・田代
9月29日	10:00	調査結果分析2	中村・岡嶋・実積・田代

[研究内容について]

2025 年度は、2024 年度に先行して行った予備調査の分析をもとに、本調査を実施した。予備調査をもとにした仮説を肯定する結果が出る一方、仮説を否定する結果もみられた。

1) 予備調査の分析

本調査を進めるにあたり、2024 年に予備調査を行い、その分析を進めた。分析した結果、

- ① ネット依存とネットいじめの加害・被害は、仮説通り、正の相関があった
- ② スマートフォン利用時間は、ネット依存とネットいじめの加害・被害に対して、仮説と逆の、負の相関があった
- ③ ゲーム時間は、ネット依存とネットいじめの加害・被害に対して、正の相関があった。これは、先行研究を踏まえ、パソコンの利用時間や孤独の代理変数であるという仮説を立てた。
- ④ ネットいじめに使われるプラットフォームや、トラブル時の相談先など、フリーワードで聴いた部分で一定の傾向がみられ、本調査で利用する選択肢を作成することができた。
- ⑤ 設問が長くなることで、不正確な回答が増える傾向がみられた。本調査では不要な設問を削除し、正確な回答を促す。

等の知見を得た。これら知見と先行研究の内容を踏まえ、本調査票を作成した。

2) 本調査票の作成

先行研究や①のインタビュー結果などを踏まえ、調査票の作成を行なった。

- ① ネットいじめ経験（加害・被害）と、ネット依存・抑うつ傾向の関係
 - ② ネット利用時間を、スマートフォンとパソコンで分けて調査する
 - ③ 安全学の 3 要素（システム・ルール・人間）によるネットいじめリスクの軽減効果
- の 3 点を中心に設定した

3) 本調査の準備

調査を委託する企業との打ち合わせや、契約金額が多くなるため、理事承認を得るための準備を進めた。

4) 本調査の実施

2025 年 5 月に、ネットいじめの加害・被害の経験と、ネットの利用時間、ネット依存や抑うつ傾向、安全学の 3 要素による経験効果について調査した。インターネット経由で、調査人数は 1000 名、全国の大学生世代（18 歳～20 歳）に対して高校生だった頃の 3 年間の経験を調査した。

5) ゲームと孤独感に関する調査（以下：ゲーム調査）

2025 年 9 月に、ゲーム時間に関して、孤独感との関係を調査した。インターネット経由で 1,265 名、全国の大学生世代（18 歳～20 歳）に対して、ゲーム時間や、家庭・地域・学校などでの孤独感について調査をした。ゲーム時間は孤独感の代理変数ではないかという仮説を立てたが、ゲーム時間と孤独感に相関はみられず、仮説は否定された。

6) データ分析

調査データの分析を進めた。分析した結果、いくつかの新しい知見を得た。

- ① ネット依存とネットいじめの加害・被害は、仮説通り、正の相関があった
- ② 抑うつ傾向とネットいじめの加害・被害は、仮説通り、正の相関があった
- ③ スマートフォンの利用時間は、ネット依存とネットいじめの加害・被害に対して、弱い負の相関があった
- ④ パソコンの利用時間は、ネット依存とネットいじめの加害・被害に対して、正の相関があった
- ⑤ 安全学の3要素は、フィルタリングの設置と家庭内ルールの順守は、ネットいじめの加害・被害ともに無相関であったが、リテラシー教育の受講経験とネットいじめの加害・被害の頻度には正の相関があった。

これらの知見は学会で発表・論文投稿するとともに、2026年度に行う2度目の調査の内容精査のために活用する予定である。

7) 2025年の学会等での発表および情報収集

- ① 2025年7月5日(土)～6日(日)

2025年度第52回情報通信学会大会(長崎大学)

報告タイトル:「インターネット依存傾向とネットいじめの加害・被害に関する予備調査の報告-全国の大学生世代への調査結果から-」(田代光輝・富田拓郎・大宮宗一郎・菊地創)

報告者:田代光輝

- ② 2025年8月30日～31日(土)

日本カウンセリング学会第57回大会(江戸川大学)

報告タイトル:「大学生のインターネット依存傾向とソーシャルサポートおよびパーソナリティ特性との関連」(菊地創・富田拓郎)

報告者:菊地創

- ③ 2025年9月6日(土)

情報社会学会2025年度研究発表大会(龍谷大学)

報告タイトル:「ネットいじめとネット依存の関係の分析-2024年の全国の18歳から22歳に対するアンケート調査より-」(田代光輝・富田拓郎・大宮宗一郎・菊地創・実積寿也)

報告者:田代光輝

- ④ 2025年11月13日(木)～15日(土)

第66回日本児童青年精神医学会(福井市 AOSSA)

若年者のゲーム依存やネット依存についての現状と調査手法、および支援についての情報収集を実施

出張者:大宮宗一郎

- ⑤ 2025年12月4日(木)～11日(土)

IEEE New Era World Leaders AI Summit(ワシントン大学、シアトル)

AI利活用における信頼・倫理や責任あるAI(responsible AI)をめぐる政策動向や最新研究に関する情報収集を実施

出張者:実積寿也

- ⑥ 2025年12月20日(土)

2025 年度 社会情報学会中国四国支部第 1 回研究発表会（鳥取短期大学）
報告タイトル：「広告最適化が駆動する SNS コミュニティの動的縮小と構造的孤独の形成—仮説設定と研究計画の提案—」（実積寿也・富田拓郎・大宮宗一郎）
報告者：実積寿也

- ⑦ 2026 年 3 月 6 日（金）～8 日（土）
情報処理学会 第 88 回全国大会（松山大学）
「SNS の利用規制と社会への影響」および、2026 年度に計画している「自律分散型 SNS による情報空間の再構築」に関する情報収集を実施
出張者：岡嶋裕史

8) 公刊論文・書籍

- 田代光輝・富田拓郎・大宮宗一郎・菊地創・実積寿也（2025）「ネットいじめとネット依存の関係の分析—2024 年の全国の 18 歳から 22 歳に対するアンケート調査より—（Analysis of the relationship between cyberbullying and internet addiction -From a nationwide survey of 18-22 year-olds conducted in 2024）」『情報社会学会誌』20(1), 107-116. <https://infosocio.sakura.ne.jp/wp/wordpress/wp-content/uploads/2025/11/vol20no1-8.pdf>
- 岡嶋裕史、光文社、『子どもの SNS 禁止より、大人の X 規制が必要な理由』、2025 年

[今後の予定について]

本調査の結果をうけ、2 回目の調査での調査票を改訂して実施する。

特に、予備調査で明らかになった「孤独感」について、先行研究に基づく調査を行い、2 回目の調査内容に反映する。ネットいじめを臨床心理の観点からより深く分析し、予防や対応の提言につなげる。

また、2026 年 7 月開催の ITS に対して、以下の 3 本の報告がアセプトされており、発表を行う。

- “The Governance of Algorithmic Isolation: Addressing Structural Loneliness as a Systemic Market Failure” (Toshiya Jitsuzumi, Takuro Tomita, Soichiro Omiya)
- “Mental Health-Related Distress, Internet Dependency, and Cyberbullying among Japanese Adolescents” (Mitsuteru Tashiro, Takuro Tomita, Soichiro Omiya, Sou Kikuchi, Toshiya Jitsuzumi)
- “Loneliness and Video Game Use Among Japanese Young Adults: Social Contexts, Life Transitions, and Gaming Behavior” (Mitsuteru Tashiro, Yushi Okajima, Chikafumi Nakamura)

これら研究成果は、2026 年 8 月予定の COI-NEXT 未来共創分野の申請につながった

(英文)

Research Activities

In FY2025, all research meetings were conducted in an online format. The dates, agendas, and participants are summarized below.

1. Meetings on the Cyberbullying Survey

Date	Time	Agenda	Participants
April 18	19:00	Confirmation of the survey questionnaire contents	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro
May 26	19:00	Confirmation of the survey results	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro
June 23	19:00	Discussion of analytical findings	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro
August 12	19:00	Confirmation of presentation contents and related matters	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro
September 16	19:00	Discussion of analytical findings	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro
October 27	13:00	Analysis I in preparation for the second survey	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro
November 13	11:00	Analysis II in preparation for the second survey	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro
March 11	15:00	Analysis III in preparation for the second survey	Tomita, Omiya, Kikuchi, Jitsuzumi, Tashiro

2. Meetings on the Chuo University PG Project

Date	Time	Agenda	Participants
November 19	17:00	Meeting with Professor Takase, Faculty of Letters, Chuo University	Jitsuzumi, Tomita, Okajima
December 16	11:00	Preparatory meeting for participation in the PG project	Jitsuzumi, Tomita, Okajima

3. Meetings on the Survey on Gaming and Loneliness

Date	Time	Agenda	Participants
May 21	19:00	Kickoff meeting for the survey on gaming and loneliness	Nakamura, Okajima, Jitsuzumi, Tashiro
June 4	13:00	Interview with Mr. Takahiro Hirano (Executive Officer, REJECT Inc.) regarding the psychological condition of professional gamers	Nakamura, Okajima, Tashiro
June 5	11:00	Interview with Mr. Kosuke Yakushijin (Attorney, Fork Law Office) regarding the psychological condition of online game players	Nakamura, Okajima, Jitsuzumi, Tashiro
June 25	19:00	Review of prior studies I	Nakamura, Okajima, Jitsuzumi, Tashiro
July 9	19:00	Review of prior studies II	Nakamura, Okajima, Jitsuzumi, Tashiro
July 22	19:00	Review of prior studies III; refinement of survey contents I	Nakamura, Okajima, Jitsuzumi, Tashiro
July 27	11:00	Refinement of survey contents II	Nakamura, Okajima, Tashiro
August 16	10:00	Refinement of survey contents III	Nakamura, Okajima, Jitsuzumi, Tashiro
August 22	10:00	Refinement of survey contents IV	Nakamura, Okajima, Jitsuzumi, Tashiro

September 15 10:00 Analysis of survey results I

Nakamura, Okajima, Jitsuzumi,
Tashiro

September 29 10:00 Analysis of survey results II

Nakamura, Okajima, Jitsuzumi,
Tashiro

Research Content

In FY2025, the main survey was conducted on the basis of the analysis of the preliminary survey carried out in FY2024. The analysis yielded results that supported some of the initial hypotheses, while other results did not.

1. Analysis of the Preliminary Survey

In order to proceed with the main survey, a preliminary survey had been conducted in 2024, and its analysis was further advanced in FY2025. The analysis generated the following findings:

1. As hypothesized, internet addiction was positively correlated with both cyberbullying perpetration and victimization.
2. Smartphone usage time was negatively correlated with internet addiction and with cyberbullying perpetration and victimization, contrary to the original hypothesis.
3. Gaming time was positively correlated with internet addiction and with cyberbullying perpetration and victimization. On the basis of prior studies, it was hypothesized that gaming time might function as a proxy variable for computer usage time and/or loneliness.
4. Certain patterns were identified in the free-response items concerning the platforms used for cyberbullying and the sources of consultation in the event of trouble. These patterns made it possible to formulate response options to be used in the main survey.
5. It was observed that, as the questionnaire became longer, the tendency toward inaccurate responses increased. Accordingly, unnecessary questions were removed from the main survey in order to improve response accuracy.

Based on these findings, together with the existing body of prior research, the questionnaire for the main survey was developed.

2. Development of the Main Survey Questionnaire

On the basis of prior studies and the interview findings referenced above, the questionnaire for the main survey was developed. In particular, the survey was designed around the following three focal points:

1. The relationship between experiences of cyberbullying (both perpetration and victimization), internet addiction, and depressive tendencies;
2. The separate measurement of internet usage time on smartphones and on personal computers;

3. The risk-mitigating effects of the three elements of safety science—systems, rules, and human factors—on cyberbullying.

3. Preparation for the Main Survey

Preparatory work was undertaken for the implementation of the main survey, including meetings with the company entrusted with the survey administration. In addition, because the contract amount was relatively large, preparations were also made to obtain approval from the Board of Trustees.

4. Implementation of the Main Survey

In May 2025, the main survey was conducted on experiences of cyberbullying perpetration and victimization, internet usage time, internet addiction, depressive tendencies, and the effects associated with the three elements of safety science. The survey was administered online to 1,000 respondents nationwide. The target population consisted of university-age young adults (18–20 years old), who were asked retrospectively about their experiences during the three years when they had been in high school.

5. Survey on Gaming and Loneliness

In September 2025, a separate survey was conducted on gaming time and its relationship with loneliness (hereinafter, the “gaming survey”). This online survey was administered to 1,265 university-age young adults (18–20 years old) nationwide and examined gaming time as well as feelings of loneliness in family, community, and school settings. Although it had been hypothesized that gaming time might serve as a proxy variable for loneliness, no statistically meaningful correlation was observed between gaming time and loneliness, and the hypothesis was therefore not supported.

6. Data Analysis

The analysis of the survey data was further advanced, and several new findings were obtained:

1. As hypothesized, internet addiction was positively correlated with both cyberbullying perpetration and victimization.
2. As hypothesized, depressive tendencies were positively correlated with both cyberbullying perpetration and victimization.
3. Smartphone usage time exhibited a weak negative correlation with internet addiction and with cyberbullying perpetration and victimization.
4. Personal computer usage time exhibited a positive correlation with internet addiction and with cyberbullying perpetration and victimization.
5. With regard to the three elements of safety science, neither the installation of filtering tools nor compliance with household rules showed any correlation with cyberbullying

perpetration or victimization. By contrast, experience of literacy education showed a positive correlation with the frequency of both perpetration and victimization. These findings will be presented at academic conferences and submitted for publication. They will also be utilized in refining the design of the second survey to be conducted in FY2026.

Presentations at Academic Conferences and Related Information Collection in 2025

1. July 5–6, 2025

The 52nd Annual Conference of the Japan Society of Information and Communication Research (Nagasaki University)

Presentation title: “A Preliminary Report on Internet Addiction Tendencies and Cyberbullying Perpetration/Victimization: Findings from a Nationwide Survey of University-Age Young Adults”

Authors: Mitsuteru Tashiro, Takuro Tomita, Soichiro Omiya, Sou Kikuchi

Presenter: Mitsuteru Tashiro

2. August 30–31, 2025

The 57th Annual Conference of the Japanese Association of Counseling Science (Edogawa University)

Presentation title: “Internet Addiction Tendencies among University Students and Their Relationships with Social Support and Personality Traits”

Authors: Sou Kikuchi, Takuro Tomita

Presenter: Sou Kikuchi

3. September 6, 2025

2025 Annual Conference of the Association for Socio-Informatics (Ryukoku University)

Presentation title: “An Analysis of the Relationship between Cyberbullying and Internet Addiction: Evidence from a Nationwide Questionnaire Survey of 18- to 22-Year-Olds Conducted in 2024”

Authors: Mitsuteru Tashiro, Takuro Tomita, Soichiro Omiya, Sou Kikuchi, Toshiya Jitsuzumi

Presenter: Mitsuteru Tashiro

4. November 13–15, 2025

The 66th Annual Meeting of the Japanese Society for Child and Adolescent Psychiatry (AOSSA, Fukui City)

Information was collected on the current state of gaming addiction and internet addiction among young people, as well as on relevant research methods and support measures.

Assigned member: Soichiro Omiya

5. December 4–11, 2025

IEEE New Era World Leaders AI Summit (University of Washington, Seattle)

Information was collected on recent policy developments and state-of-the-art research concerning trust, ethics, and responsible AI in the utilization and application of AI.

Assigned member: Toshiya Jitsuzumi

6. **December 20, 2025**

First Research Meeting of the Chugoku-Shikoku Branch of the Society of Socio-Informatics, FY2025 (Tottori College)

Presentation title: “The Dynamic Shrinkage of SNS Communities Driven by Advertising Optimization and the Formation of Structural Loneliness: Hypothesis Development and a Proposed Research Plan”

Authors: Toshiya Jitsuzumi, Takuro Tomita, Soichiro Omiya

Presenter: Toshiya Jitsuzumi

7. **March 6–8, 2026**

The 88th National Convention of the Information Processing Society of Japan (Matsuyama University)

Information was collected on regulations governing SNS use and their social impact, as well as on the FY2026 research theme, “Reconstructing the Information Space through Decentralized Autonomous SNS.”

Assigned member: Yushi Okajima

Published Paper

Tashiro, M., Tomita, T., Omiya, S., Kikuchi, S., & Jitsuzumi, T. (2025). Analysis of the relationship between cyberbullying and internet addiction: From a nationwide survey of 18–22-year-olds conducted in 2024. *Journal of Socio-Informatics*, 20(1), 107–116.

Okajima, Y. (2025). *Why regulating X for adults is more necessary than banning SNS use for children*. Tokyo: Kobunsha.

Future Plans

On the basis of the findings of the main survey, the questionnaire for the second survey will be revised and the survey will subsequently be implemented. In particular, with respect to loneliness, which emerged as an important issue in the preliminary survey, further investigation will be conducted on the basis of prior studies, and the findings will be reflected in the design of the second survey. In addition, cyberbullying will be examined more deeply from the perspective of clinical psychology, with a view to developing recommendations for prevention and intervention.

Furthermore, the following three papers have been accepted for presentation at ITS, to be held in July 2026:

- “The Governance of Algorithmic Isolation: Addressing Structural Loneliness as a Systemic Market Failure” (Toshiya Jitsuzumi, Takuro Tomita, Soichiro Omiya)

- “Mental Health–Related Distress, Internet Dependency, and Cyberbullying among Japanese Adolescents” (Mitsuteru Tashiro, Takuro Tomita, Soichiro Omiya, Sou Kikuchi, Toshiya Jitsuzumi)
- “Loneliness and Video Game Use Among Japanese Young Adults: Social Contexts, Life Transitions, and Gaming Behavior” (Mitsuteru Tashiro, Yushi Okajima, Chikafumi Nakamura)

These research outcomes also contributed to the preparation of an application for the COI-NEXT Future Co-Creation Program scheduled for August 2026.

4. 主な発表論文等（予定を含む）

2025年度に行った共同研究プロジェクトの研究課題としての成果内容についてご記載ください。

※行が不足する場合は、適宜、行を追加してご記入ください。

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無（査読がある場合は必ず査読有りと明記してください）、巻号、頁、発行年月）＜発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中のものは除く＞

田代光輝・富田拓郎・大宮宗一郎・菊地創・実積寿也（2025）「ネットいじめとネット依存の関係の分析—2024年の全国の18歳から22歳に対するアンケート調査より—（Analysis of the relationship between cyberbullying and internet addiction - From a nationwide survey of 18-22 year-olds conducted in 2024）」『情報社会学会誌』20(1), 107-116. <https://infosocio.sakura.ne.jp/wp/wordpress/wp-content/uploads/2025/11/vol20no1-8.pdf>

査読あり

【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）

報告者：田代光輝

報告タイトル：「インターネット依存傾向とネットいじめの加害・被害に関する予備調査の報告-全国の大学生世代への調査結果から-」（田代光輝・富田拓郎・大宮宗一郎・菊地創）

2025年度第52回情報通信学会大会

長崎大学

2025年7月5日（土）～6日（日）

報告者：菊地創

報告タイトル：「大学生のインターネット依存傾向とソーシャルサポートおよびパーソナリティ特性との関連」（菊地創・富田拓郎）

日本カウンセリング学会第57回大会

江戸川大学

2025年8月30日～31日（土）

報告者：田代光輝

報告タイトル：「ネットいじめとネット依存の関係の分析-2024年の全国の18歳から22歳に対するアンケート調査より-」（田代光輝・富田拓郎・大宮宗一郎・菊地創・実積寿也）

情報社会学会 2025年度研究発表大会

龍谷大学

2025年9月6日（土）

報告者：実積寿也

報告タイトル：「「広告最適化が駆動するSNSコミュニティの動的縮小と構造的孤独の形成—仮説設定と研究計画の提案—」（実積寿也・富田拓郎・大宮宗一郎）

2025年度 社会情報学会中国四国支部第1回研究発表会

鳥取短期大学

【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）
岡嶋裕史、光文社、『子どもの SNS 禁止より、大人の X 規制が必要な理由』、2025 年
【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）